

資料

1. 自然の回廊 案内板設置一覧

平成 22 年度【(仮称) 桜山古墳回廊周辺】

種類	設置場所	内容	備考
説明板	古墳	長柄桜山古墳群第 1 号墳	説明板①
	古墳	長柄桜山古墳群第 2 号墳	説明板②
	郷土資料館	逗子市郷土資料館	説明板③
道標	蘆花記念公園入口	蘆花記念公園入口案内	
	資料館裏	資料館	
	古墳付近	古墳上り道案内	
	古墳付近	古墳上が道案内	
	古墳付近	六代墓道	
	古墳 2 号墳付近	古墳 2 号墳分岐	
	古墳付近	古墳案内	
	古墳付近	古墳案内	
	古墳付近	古墳案内	
	古墳付近	長柄交差点	

平成 23 年度【(仮称) 披露山・大崎・小坪回廊周辺

(仮称) 逗子海岸回廊周辺】

種類	設置場所	内容	備考
説明板	新宿・逗子海岸付近	新宿稻荷神社と横穴墓群	説明板④
	高養寺	浪子不動と不如帰の碑	説明板⑤
	高養寺	逗子海岸葛ヶ浜	説明板⑥
	披露山公園	披露山眺望案内鎌倉方面	説明板⑦
	披露山公園	披露山眺望案内葉山方面	説明板⑧
	披露山公園駐車場	尾崎行雄記念碑	説明板⑨
道標	新宿・逗子海岸付近	披露山公園・海岸通り・逗子駅への案内	
	新宿・逗子海岸付近		
	新宿・逗子海岸付近		
	新宿・逗子海岸付近		
	高養寺		

平成 24 年度【(仮称) 神武寺・鷹取山回廊周辺】

種類	設置場所	内容	備考
説明板	海宝院	海宝院（曹洞宗）	説明板⑩
	光照寺	光照寺（真言宗）	説明板⑪
	神武寺	神武寺（天台宗）	説明板⑫
	神武寺	神武寺・みろくやぐら	説明板⑬
	神武寺	神武寺・薬師堂	説明板⑭
	逗子ホームせせらぎ奥	「池子石」の石切り場跡	説明板⑮
	池子神明社	池子神明社と神興渡御	説明板⑯
	東昌寺	東昌寺（真言宗）	説明板⑰
	法勝寺	法勝寺（日蓮宗）と堀の内	説明板⑱

2. 設置説明板

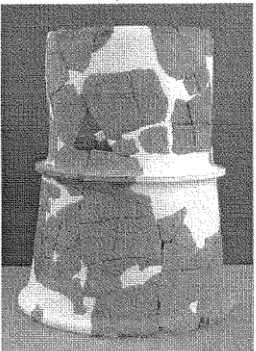
説明板① 長柄桜山古墳群第1号墳

国指定史跡 長柄桜山古墳群 第一号墳

四世紀後半(約一六〇〇年前・古墳時代前期)に造られた、逗子市と葉山町にまたがる丘陵上にある県内最大級の前方後円墳です。墳丘の長さは約九〇mで、山を削って成形した上に約一・五m盛り土をして築いています。後円部は三段、前方部は二段の段築(斜面に段を設ける構造)になっていますが、第二号墳のような葺石はありません。

後円部の中央やや東よりに、幅約一・六m、長さ約七mの陥没坑(埋められた木棺が腐って地面が沈んだ窪み)があり、その約一・五m下に粘土槨(棺を粘土でおおった埋葬施設)が一基あることがわかっています。が、内部は調査していないため、副葬品などは未確認です。

周辺からは円筒埴輪や壺形埴輪の破片が数多く出土し、後円部の墳頂部には、埋葬施設を囲うように埴輪が列をなして並べられていたことがわかっています。



出土した円筒埴輪

逗子市・自然の回廊プロジェクト


説明板② 長柄桜山古墳群第2号墳

国指定史跡 長柄桜山古墳群 第二号墳

四世紀後半(約一六〇〇年前・古墳時代前期)に造られた、県内最大級の前方後円墳です。逗子市と葉山町にまたがる丘陵上にあつて、墳丘の長さは約八十八m、前方部を西に向けており、残存状態は総じて良好です。

これまでごく小規模な発掘調査しか行っていないが、第一号墳と同様に、自然の山を削って成形した上に、盛り土をして築いたものと思われれます。段築の有無についても明らかではありませんが、南関東の前期古墳では珍しい葺石(装飾・補強するため斜面に貼りつける石)が設けられているのが特徴です(第一号墳にはありません)。

周辺からは円筒埴輪や壺形埴輪の破片が出土していますので、埴輪列があつたと思われれます。埋葬施設の位置や構造、規模などは明らかになっていません。



二号古墳
前方部で確認された葺石
写真:神奈川県教育委員会

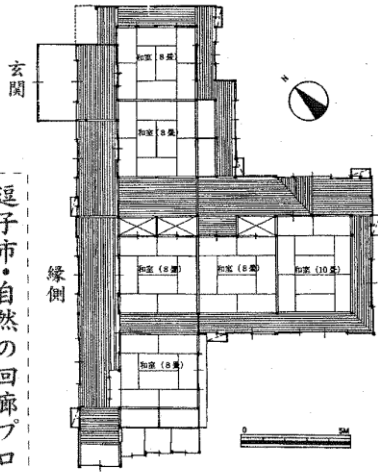
逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板③ 逗子市郷土資料館

逗子市郷土資料館

大正元年(一九一)頃に横浜の実業家の別邸として建てられましたが、大正六年から昭和十九年までは徳川宗家第十六代当主徳川家達(貴族院議長)が使用したと伝えられます。建物は木造平屋建て、寄棟造りの棧瓦葺きです。部屋の配置はT字形で、海に面した西側は八畳の和室が一行に四部屋並び、それに沿って縁側が一直線に伸びています。冬晴れの日などには、相模湾に浮かぶ江ノ島の背後に丹沢、富士の山々を一望することができます。

昭和五十九年からは郷土資料館として、逗子に関する文学・歴史などの資料等を展示しています。



平面図

出典:『神奈川県近代和風建築—神奈川県近代和風建築調査報告書—』2000.3 神奈川県教育委員会

逗子市・自然の回廊プロジェクト

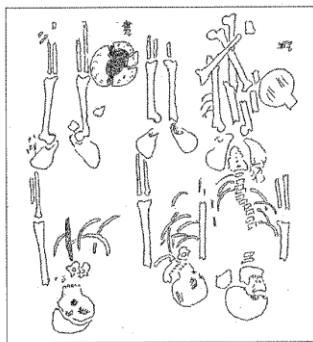
説明板④ 新宿稲荷神社と横穴墓群

新宿稲荷神社と新宿横穴墓群

伏見稲荷を祀る新宿地区の鎮守です。石段の踊り場の石製手水鉢に「奉献 元治二年(一八六五)」の銘がありますが、確かな創建時期は分かりません。

社殿奥のコンクリート造りの岩窟の中に、白木造りの本殿が見えます。昭和三十二年改築の社殿は「流造」といって、反りのついた屋根が長く張り出す形式が特徴です。社殿右側に、火伏せ(防火)の神様「秋葉山大権現」の石塔があります。

神社から、海岸に面する山の際にかけて、関東大震災の時の山腹崩壊によって、二十数基の「横穴墓」が現れました。古墳時代最後の頃(七〜八世紀)の形態を示すもので、火葬骨片の他十数体の人骨をはじめ、直刀、玉類、銅釧(腕輪)などの祭祀用装身具や、土師器、須恵器が出土しました。この土地の有力者の存在をうかがわれます。



大正14年調査 横穴墓の状況(平面図)
(逗子市文化財調査報告書)

逗子市・自然の回廊プロジェクト

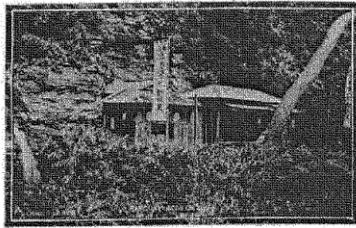
説明板⑤ 浪子不動と不如帰の碑

浪子不動(高養寺)と不如帰の碑

海上の安全を願って、古くから不動明王が祀られ、「白滝不動」とか、「波切不動」と呼ばれていました。「白滝」の名は、左奥の崖にある小さな滝からきています。明治の文豪徳富蘆花のベストセラー小説『不如帰』が、ここを舞台としていたことから、悲恋のヒロイン「浪子」にちなんで、「浪子不動」と呼ばれるようになりました。

本堂は、葉山にあった慶増院の建物を昭和二十八年(一九五三)に移したものです。高養寺の名は、葉山にゆかりのあった二人の政治家高橋是清・犬養毅からとられています。

本堂の前の海中に立つ「不如帰」の碑は、昭和八年(一九三三)に建てられました。碑の文字は蘆花の兄蘇峰の筆によるものです。この石は、江戸時代の初め、江戸城修築のために、鍋島藩が伊豆から江戸への海上輸送中に嵐に遭い、大崎沖で難破し置き去りにされたものと伝えられ、鍋島石と言われていました。



昭和初期の浪子不動

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑥ 逗子海岸葛ヶ浜

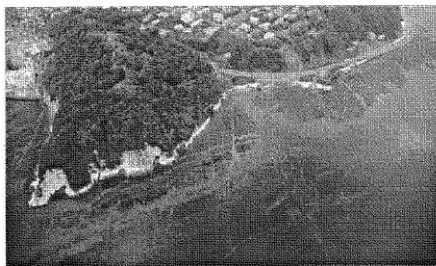
逗子海岸葛ヶ浜の隆起海食台

眼下の「不如帰」の碑の建つ岩礁は、縄文時代以来七千年間の波浪によって岩盤が侵食されてきた海底の岩礁が地震で隆起したもので、「隆起海食台」の地形と呼ばれます。

この岩礁は大正十二年(一九二三)の関東大震災の時に隆起した後、現在までゆっくり沈降しています。干潮の時に見られる編模様の地層を横切る何本もの直線的な水路は「断層線」で、これを陸の方へたどっていくと、断層線が侵食されて出来た谷「断層谷」が披露山につながっていることが分かります。

この浪子不動は「滝の沢」という断層谷の麓に建っています。かつて谷を流れる小川が、不動堂の横で高さ数メートルの滝になっていました。

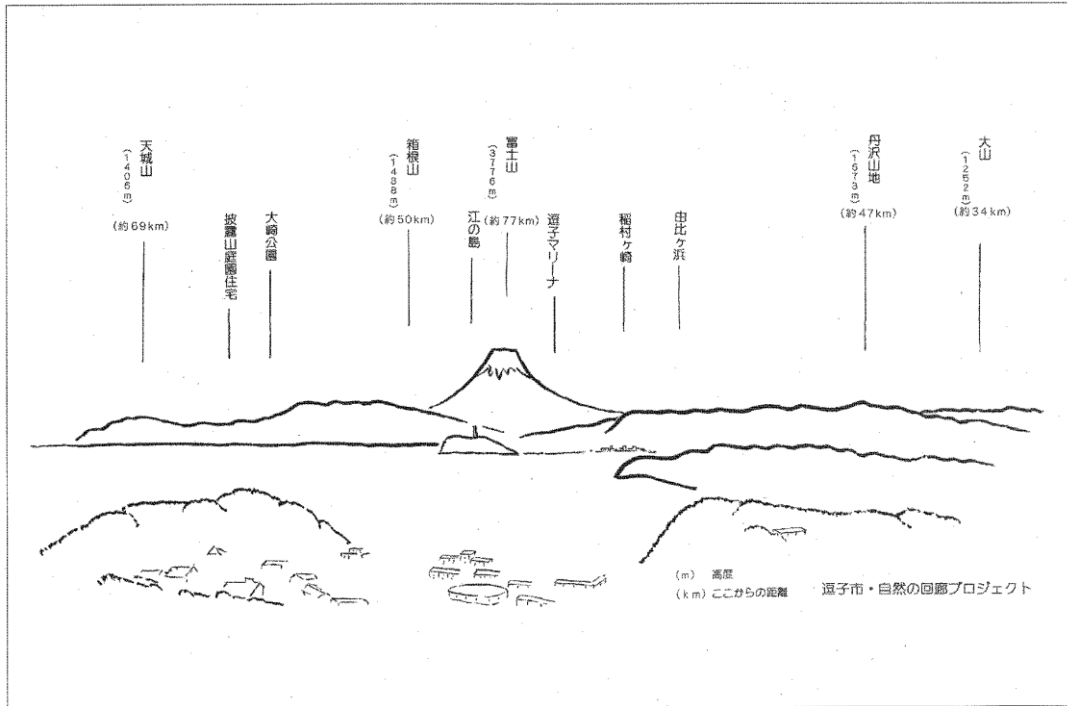
なお、これらの断層の中には、近年の調査によつて、鎌倉時代以降に動いた断層(活断層)であることが分かったものもあります。



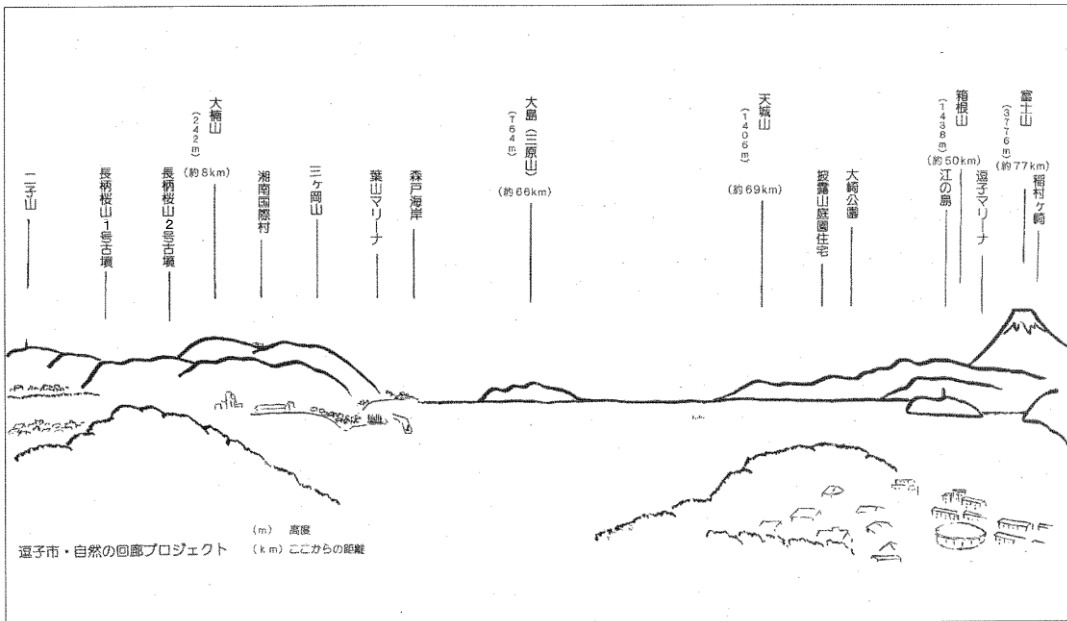
空から見た葛ヶ浜の隆起海食台 (PPG湘南ヒラツカ撮影)

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑦ 披露山眺望案内鎌倉方面



説明板⑧ 披露山眺望案内葉山方面



説明板⑨ 尾崎行雄記念碑

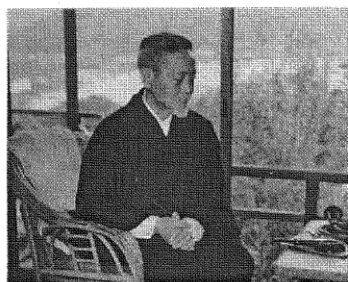
尾崎行雄記念碑

尾崎行雄(号堂)は明治二十三年(一八九〇)の第一回総選挙から昭和二十八年(一九五三)まで、六十年七か月の長きにわたって、衆議院議員を勤め、その間、藩閥政治や軍閥政治に断固反対し、議会制民主主義の確立に尽力した功績により、旧憲法下の昭和十年には衆議院から憲政功労者として表彰され、以来、「憲政の神様」と言われてきました。

東京市長時代に日米友好の証として、ワシントンのポトマック河畔に桜の苗木を贈った話は有名です。

昭和二年(一九二七)七十歳の時、この碑の直ぐ下に「風雲閣」と名づけて居を構えました。終戦直後には、日本の進むべき道について、教えを請う人たちが溢れたそうです。昭和二十九年十月に、この地で九十五歳の天寿を全うしました。

碑文「人生の本舞台は将来にあり」は、「現在なしていることは、すべて将来に備えてのことである」という意味です。



昭和24年風雲閣にて

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑩ 海宝院(曹洞宗)

海宝院(曹洞宗)

徳川家康の代官頭・長谷川長綱が創建したお寺です。当初は山門、本堂、鐘楼、回廊、庫裡、衆寮、書院、鎮守などが軒を連ねていました。寺の焼失再建もありましたが、表門(四脚門・市指定重要文化財)は当時からのもので、寺には幾度かの戦いに使われたといわれる鐘があり、家康から拝領した陣鐘と伝えられています。(応永十年(一四〇三)の銘、県指定重要文化財)

長綱は家康の関東入府に従い、検地などを行ないました。江戸幕府成立後は代官頭に任じられ、浦賀に陣屋を置き、江戸への海上物流などを管轄し、三浦半島の発展に貢献しました。

本堂の左手奥には、長綱を始めとする一族の方々の墓があります。

その昔、逗子村から金沢・浦郷村にいたる道は、海宝院を始めいくつかの寺の前を通ることから、「寺道」と呼ばれました。また、田越川の河口近くで陸揚げされた魚を馬で榎戸(追浜)に陸送する「魚荷道」でもありました。



徳川家康の代官頭・長谷川長綱の墓

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑪ 光照寺（真言宗）

光照寺（真言宗）

真言宗のお寺で、平治の乱（一一五九年）で敗れた源義朝の長子悪源太義平の供養に建てられたと伝えられています。創建は不詳です。明治の初めまでは沼間村の鎮守であった五霊神社を管轄する別当寺でした。本尊の木造阿弥陀如来立像は玉眼、寄木造で、鎌倉時代の後期に作られたものです。（県指定重要文化財）光照寺は湘南七福神の一つ。家庭円満、福德延命の寿老人をお祀りするお寺です。

寺の前はギシドウ（議事堂）と呼ばれ、この付近は江戸時代、村の中心でした。昔はここに青年会が管理する畳敷きの部屋、囲炉裏、台所のある村の会議所がありました。

会議所は大正末年頃に現在の沼間会館の地に移され、名称も会館となりました。

初夏にはお寺の裏手、矢の根川（田越川の上流）で螢の群生が見られます。



阿弥陀如来立像

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑫ 神武寺（天台宗）

神武寺（天台宗）

全山が凝灰岩から成るやまふとこりに建つ、古くからの山岳信仰の霊場で、「こうのたけ（神之嶽）」が寺名の由来といわれます。

鎌倉幕府の信仰が厚く、吾妻鏡には、建久三年（一一九二）に、源頼朝が妻政子の安産を祈願して神馬を奉納したとあり、また、三代將軍実朝も、病氣平癒のお礼に参詣しています。

豊臣秀吉の小田原北條氏攻めの時には、神武寺も戦火に遭うなど、度々、火災と再建を繰り返しています。

総門は、元は東逗子駅踏切り近くにありましたが、第二次大戦中に表参道の登り口に移され、更に、現在地に移されました。

「神武寺の晩鐘」として逗子八景に数えられる鐘も、太平洋戦争で供出を余儀なくされ、現在の鐘は戦後、昭和二十五年（一九五〇）に铸造されたものです。

広大な寺域を持った時期もある、歴史あるお寺です。

なお、周辺の常緑広葉樹林は、太古の三浦半島の植生をよく残す貴重な地域です。



神武寺・神之嶽古絵地図

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑬ 神武寺・みろくやぐら

神武寺・みろくやぐら

「やぐら」とは、十三〜十五世紀にかけて、鎌倉と近隣を中心に営まれたもので、崖に四角い横穴を穿ち、中に五輪塔を据え、死者を吊う、葬送供養の場でした。逗子市域ではこの他に、「まんだら堂やぐら群」「こんびらやぐら群」なども知られています。

この「みろくやぐら」の中には石造弥勒菩薩坐像が安置され、この石像の背後に、正応三年（一二九〇）に七十三歳で没した鎌倉八幡宮の舞楽師・中原光氏の名が刻まれています。

光氏は文永三年（一二六六）に、鎌倉八幡宮に木造弁才天坐像（国指定重要文化財）を奉納しています。

舞楽は平安時代以降、社寺の祭礼や法会で盛んに演じられ、文治五年（一一八九）には、鶴岡若宮で源頼朝公臨席のもと、初めて法会が行なわれ、笙、ひちりき、笛などの管弦と共に舞楽が奉納され、流鏑馬や相撲が行なわれたとの社寺記録が残っています。この舞楽師たちは、京都から招かれた人達でした。

今日では、毎年五月五日の菖蒲祭で、盛大に舞楽が奉納されています。



石造弥勒菩薩坐像

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑭ 神武寺・薬師堂

神武寺・薬師堂

薬師堂は「医王山・神武寺」の名の通り、薬師信仰の中心です。現在は銅葺屋根ですが、昔の茅葺屋根の葺き替え工事の「棟札」には慶長三年（一五九八）の年号が残されており、薬師堂は逗子では古くからの建築物の一つです。（県重要文化財）

「お薬師のお力によって、衆生の病苦が救われる」と信じられた薬師信仰が、極楽浄土を求める阿弥陀信仰と共に盛んでした。吾妻鏡にも源頼朝や政子が篤く信仰したことが記されています。

薬師堂の薬師三尊像（市重要文化財）は秘仏で、本来は三十三年に一度ご開帳されますが、年の暮れ十二月十三日には毎年、すす払いがあり、ご本尊拝観のチャンスがあります。

薬師堂脇の鷹取山ハイキング道の左手には「女人禁制」の石柱があり、修験者（山にこもって心身を鍛える行者）がこの山で修行したことが分かります。

また、薬師堂の近くには樹齢四百年といわれるホルトの木（通称「なんじゃもんじゃ」）の木、かながわの名木百選や菩提樹などの大木があります。



薬師堂・年末のすす払い法要

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑮ 「池子石」の石切り場跡

「池子石」の石切り場跡

明治の末頃から大正時代にかけて、この周辺の山から灰褐色の凝灰岩を切り出す仕事がありました。

「池子石」と呼ばれ、塀根、土台、護岸、井戸などの土木建築材料の他、墓石、燈籠などに使われました。

切り出された石は、木のそりとトロッコを使って、現在の逗子中学校の体育館辺りまで運ばれ、そこからは「馬力」と呼ばれる荷馬車で各地に運ばれて行きました。現在でも逗子市内では、田越川の護岸や旧家の屋敷の石塀、寺社の石段など市内各所に池子石を見ることが出来ます。

しかし、同じ種類の「鷹取石」や「佐島石」（横須賀市）との競合や「大谷石」の出現、更に関東大震災などで廃れてしまいました。

「逗子ホームせせらぎ」の裏山にある石切り場跡の洞穴の壁に

「ふり向けば うしろにも居り
みちおしえ」

の俳句が刻まれています。

「みちおしえ」は「ハンミョウ」という名の甲虫で、人が歩く先に止まる習性があることからの別名です。



俳句の刻まれた石切り場跡

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑯ 池子神明社と神輿渡御

池子神明社と神輿渡御

明治十年（一八七七）の「合祀令」（一村一社にまとめる）によって、池子村の小字にあった六社大明神（逗子高校の奥にあった）などの七社は、須賀社のあった地に「村社神明社」としてまとめられ、明治四十五年（一九一三）、新殿を建て、合祀されました。

江戸時代、池子村は鎌倉の英勝寺（徳川家康の側室お勝の方が開山）の寺領でした。

天明八年（一七八八）と天保十二年（一八四一）、池子村に「はやり病」が蔓延しましたが、そのたびに、英勝寺から除病祈願の神輿と葵御紋の提灯が下賜され、「病封じ」の村内巡行が行なわれるようになりました。

毎年七月、金色の金具に黒と朱漆の見事な神輿を、白衣に烏帽子姿の人が担ぎ、神主、木遣り、お囃子の山車が続く、古式豊かな神輿渡御が行なわれます。

神明社の前の道は、昔は金沢街道とよばれ、金沢から池子、山の根を通って亀岡八幡宮の脇を通り、鎌倉、藤沢方面へと続いていて、荷物を馬に引かせ、商人などが多く通った道でした。



池子神明社の神輿渡御

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑰ 東昌寺（真言宗）

東昌寺（真言宗）

東昌寺は、江戸時代、池子村が鎌倉の英勝寺の寺領であった以前から須加神社を始め、村内八ヶ所にあった神社・社の別当を勤めた、村の中心的存在でした。

享保十二年（一七二七）の火災により、本堂と共に阿弥陀堂も焼失しましたが、英勝寺や村の内外の人々の寄進によって本堂、山門、庫裡と順次再建され、宝暦五〇八年（一七五八）にかけて阿弥陀堂と消失した阿弥陀如来坐像も再興されました。

丈六の木造阿弥陀如来坐像（像高二・六m、市指定重要文化財）は、三浦半島で最大の木造の尊像です。

境内の五輪塔は、「紗弥（二階堂）行心帰寂乾元二年（一三〇三）七月八日」と、亡くなった人の名と年代が具体的に刻された、鎌倉時代末期の優美な安山岩製石塔で、国の重要文化財になっています。

湘南七福神（福祿寿尊）のお寺で、春にはサクラ、初夏にはアジサイが咲き誇ります。

因みに逗子開成学園は明治三十六年（一九〇三）東京開成中学校の分校としてここで開校されました。



丈六阿弥陀如来坐像

逗子市・自然の回廊プロジェクト

説明板⑱ 法勝寺（日蓮宗）と堀の内

法勝寺（日蓮宗）と堀の内

法勝寺は日蓮宗のお寺です。

太古の沼間一帯は沼地で、すぐ近くまで海岸が迫っていました。古地名図には東逗子駅の近くに汐止め橋の地名も残っています。お寺の縁起によると、もとは田越川の最上流長尾山の麓にあった善応寺に始まっています。「七つ頭の大蛇」を退治した伝説も伝えられています。感応寺、正覚寺と寺名は変遷し、鎌倉時代には法勝寺と改められ、その後、現在の地に移されたと伝えられています。

法勝寺橋近くの旧家の裏手には、「先祖やぐら」と呼ばれる奈良時代の横穴墓があり、鎌倉時代には五輪塔を納めた「やぐら」として使われ、現在も先祖供養の場所として伝承され、供養が続けられています。

また、その近辺から神武士にかけて、階段状の平場が数多く存在し、「堀の内」の地名などと共に、武士の館の存在を伺わせます。

吾妻鏡には源義朝の「沼浜の旧宅」の記述があり、この辺りではないかと推定されています。



法勝寺周辺の古地名

逗子市・自然の回廊プロジェクト